

【試合結果】

男子 決勝トーナメント		決勝																
日時	平成29年12月28日 (木)	13:00 ~																
会場	湿原の風アリーナ釧路A																	
結果	●	<table border="0"> <tr> <td>21</td><td>—</td><td>14</td></tr> <tr> <td>14</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr> <td>7</td><td>—</td><td>17</td></tr> <tr> <td>14</td><td>—</td><td>15</td></tr> <tr> <td colspan="3">OT</td></tr> </table>	21	—	14	14	—	16	7	—	17	14	—	15	OT			○
	21		—	14														
14	—	16																
7	—	17																
14	—	15																
OT																		
	<b>滝川江陵中</b> 北空知 56	<b>旭川愛宕中</b> 旭川 62																
審判	主審 田中 充	副審 高坂 義隆																

第32回北海道中学校バスケットボール新人大会



【ボックススコア】

滝川江陵中		北空知						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	小笠原 紫礼	×	14	0	6	2	10	3
5	丸山 雄大	×	8	0	2	4	5	3
6	西迫 伯瑛	×	10	0	5	0	4	1
7	野崎 海斗	×	21	1	8	2	1	4
8	松本 太陽	×	3	1	0	0	0	0
9	渡利 颯斗	DNP	0					
10	下野 裕希	DNP	0					
11	鈴木 翼	DNP	0					
12	0	DNP	0					
13	加賀 隆留	/	0	0	0	0	0	0
14	中原 壘	DNP	0					
15	安部 光	DNP	0					
16	0	DNP	0					
17		DNP	0					
18	0	DNP	0					
HC	成田 貴幸							
合計			56	2	21	8	20	11

旭川愛宕中		旭川						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	萩生田 侑杜	×	6	2	0	0	0	1
5	松山 真之助	×	12	1	4	1	3	4
6	鹿原 拓夢	×	15	0	6	3	24	5
7	白田 翔悟	×	19	3	5	0	1	1
8	水野 神羽	DNP	0					
9	坂本 瑞樹	×	10	2	2	0	6	1
10	多田 款	/	0	0	0	0	0	0
11	森田 耕陽	DNP	0					
12	小玉 風歌	DNP	0					
13	上西 陸斗	DNP	0					
14	高 麗和	DNP	0					
15	山下 竜輝	DNP	0					
16	榎本 麗琉	DNP	0					
17	井上 寛太	DNP	0					
18	森山 亮	DNP	0					
HC	堀口 創平							
合計			62	8	17	4	34	12

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし  
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【戦評】

帯広翔陽との準決勝を勝ち上がってきた滝川江陵中学校と準決勝では帯広南町との激戦を制した旭川愛宕との一戦。スターティングメンバーは、滝川江陵#4、5、6、7、8、旭川愛宕は#4、5、6、7、9と静かな立ち上がりでスタート。江陵#7が果敢に攻め、シュートを出だして連続にきめる。愛宕も#5、9中心に攻撃を展開する。一進一退の攻防が続く。愛宕は4番の3Pを皮切りに巻き返しを図るも、江陵がタイムアウト後、江陵の早い攻めで応酬、21-14で1Qを終える。

2Q、愛宕は#7の連続シュートからスタート。江陵は、#5のドライブから#6の合わせや7番の鋭いドライブで応戦する。愛宕は攻守ともに#6がリバウンドを頑張り、流れを渡さない。#7番の3Pが決まり、後半30-30と同点に追いつくが江陵も果敢にドライブを決め、ファウルを誘い、前半35-30で終える。

3Qの立ち上がりは、両チームともスターティングメンバーと変わらずにスタート。愛宕#7、9と連続3Pシュートが決まり流れをつかみ、連続ドライブでファウルを誘い、37-38と逆転に成功する。愛宕#6番がリバウンドを頑張り、#4が3Pを沈め、37-41と逆転に成功。江陵も落ち着いたOffを見せ、#8の3Pで応戦する。Defから流れを掴んだ愛宕が逆転に成功し42-47と3Qを終える。

北大大会優勝がかかった4Qは、お互いハーフコートマンツースタート。江陵は、#7を中心にOffを展開、愛宕は#4の安定したボール運びから#6、9は中心に展開する。両者ともOffのスペーシングがうまく、長所を活かしながら展開をした。Defも両者とも頑張り、激しい戦いとなった。江陵は、#5、6、7を攻守ともに頑張りみせたが、愛宕#6がリバウンドを制し、良い流れを掴んだ愛宕が56-62と北大大会優勝となった。両チームとも力を出し切った決勝戦らしい見事な試合だった。